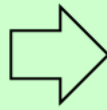


新しい取組みを積極的に手掛け可能性を拡げる大規模農業法人 ～（株）前川農産（三重県津市）～

経営体の概要

経営移譲時：平成26年度
基幹作物：水稲、麦、大豆、WCS用稲
WCS用麦、飼料用米
経営面積：113.5ha



現在：令和2年度
基幹作物：水稲、麦、大豆、WCS用稲、WCS用麦、
野菜（キャベツ等）
経営面積：119.4ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

同社の前川代表は、平成12年に就農し、同26年に代表を引き継いだ。同社では国営事業等により整備された水田を中心として、いち早く大豆、麦、飼料用稲等に取り組み、現在、延べ119ha作付けしている。水稲の作期分散、ICTによる作業管理や防除、畦畔除去の自力施工など作業の省力化・効率化を図っている。また、水稲の不耕起V溝直播、育苗箱施肥のほか新たにキャベツを導入するなど経営改善を図っている。更に児童福祉施設へ平成25年から毎年900kgの米を寄贈するなど福祉活動にも協力している。

営農改善のポイント

①省力化

新しい取組みを積極的に取り入れ、地域にあった品種の作付けや栽培技術を心がける。水稲は多品種作付け等による作期分散により、省力化、低コスト化の効果을あげている。

作業管理にICTツールを活用したことで、ほ場の位置情報や作業状況の共有等が図られ、作業の効率化に繋がっている。

ほかに育苗箱施肥、不耕起V溝直播栽培、ドローンによる防除等に取り組み省力化を図っている。また、大型機械等による作業効率を考え、畦畔除去による区画拡大化と排水向上のための弾丸暗きょを順次自力施工している。



前川代表



キャベツほ場

②単収・品質の向上

もみ殻の利用や地元畜産農家との耕畜連携による堆肥散布等による土作りを工夫している。麦はチゼルプラウによる排水対策を徹底し、単収・品質の向上を行っている（県平均単収の1.4倍）。平成31年にはJGAPの認証を取得している。

事業概要

事業種：国営施設機能保全事業
関係市町：津市、亀山市
受益面積：3,183ha
事業期間：平成24年～令和5年
事業目的：用水改良
主要工事：ダム1箇所、頭首工1箇所、
用水路L=0.9km、水管理施設一式

位置図（三重県）



<問い合わせ先>

東海農政局
農村振興部農地整備課
課長補佐（競争力強化事業推進）
電話：052-223-4638

（令和2年度調査時点）